## (2) 各拠点における生活利便施設等の配置状況の把握

本市には、拠点だけでなく主要な交通軸上に、商店・診療所から商業施設・病院まで、様々な規模の生活利便施設が立地しています。

これまで都市機能の強化を図ってきた「街なか」の拠点について、将来に向けて階層構造の拠点の形成を図るためには、比較的高次の都市機能を誘導していく必要があることから、各拠点の現状把握においては、これらの都市機能を担う生活利便施設の配置状況を把握することとします。

このため、配置状況等を把握する都市機能は、以下のとおりとします。

- ○小売店舗(売場面積3,000㎡以上)
- ○医療施設(病床数200床以上)
- ○福祉施設(収容人数200人以上)
- ○大学・短期大学(学生数500人以上)
- ○公共施設

また、各拠点の地理的な検討の範囲は、以下のとおりとします。

- ○北九州都市圏都市計画区域マスタープランにおける広域拠点・拠点の同区域内。ただし、当 該区域が明確化されていない拠点については次のとおり。
  - ・徳力・守恒:モノレール北方、競馬場前、守恒、徳力公団前の4停留場から半径500mの 同心円内
  - ・八幡南: 筑豊電気鉄道木屋瀬、新木屋瀬の2駅から半径500mの同心円内
  - ・東折尾: JR鹿児島本線陣原駅から半径500mの同心円内
  - ・上葛原:上葛原及び上葛原第2土地区画整理事業をあわせた区域内
  - ・二島: JR筑豊本線二島駅から半径500mの同心円内
  - ・永犬丸・三ヶ森:筑豊電気鉄道永犬丸、三ヶ森の2駅から半径500mの同心円内
- ○公共施設マネジメント実行計画 (平成28年2月) のモデルプロジェクト再配置計画に定める集 約先の対象とする場所・区域。

以上をまとめると資料編P15~P31の図(凡例の「区域マス」は北九州都市圏都市計画区域マスタープランのことをいう)になります。

## 北九州都市圏都市計画区域マスタープラン(福岡県決定)で定める広域拠点・拠点とは:

広域拠点は、広域的で多様な都市機能の集積を図るため、大規模集客施設の立地を誘導する区域で、原則として床面積等の規模上限なく大規模集客施設が立地できる区域。

拠点は、身近な地域において都市機能の集積を図るものとし、立地の影響が一つの市町村の範囲内に留まる程度の大規模集客施設の立地を誘導する区域。

誘導する大規模集客施設の種類等については、P67参照。

## (3) 各拠点の将来のまちづくりの方向性と拠点階層の整理

各拠点において、

- ・本市の直近の新たな施策や都市機能を強化する事業の展開など各拠点の「拠点性の向上要因」を 挙げた上で、
- ・(2) で把握した比較的高次の都市機能を担う生活利便施設の配置状況を踏まえ、

「将来のまちづくりの方向性」、このまちづくりの実現を図るために維持または誘導すべき高次都市機能(「期待される役割」)を整理します。

ここで期待される役割としての高次都市機能の立地イメージは以下のとおりとします。

○業務:本市内に本社機能を置く企業の本店、全国展開がなされる企業の支店が多く 立地しオフィス街を形成。

○商業: 小売店舗(売場面積3,000㎡以上)が立地。

○医療 : 高次の医療が受けられる医療施設(病床数200床以上)が立地。

○教育・文化:大学・短大等(学生数500人以上)、市外や国外からの利用も想定される会議施設、文化施設などが立地。

○観光:市外からの入込が多い観光施設などが立地。

○行政 : 庁舎、区役所、基幹図書館、再配置計画に基づき集約する公共施設が立地。

○交通機能 : 3つ以上の公共交通モード(交通事業者で判断。例として、鉄道、バス、モ

ノレールなど)での交通結節が可能。

これらをまとめるとP63の表のとおりです。

これをもとにして、これまでの上位計画に位置づけられた各拠点がどの拠点階層に相当するかを あらためて見ると、

「都心・副都心」は、

- ・少なくとも、高度な交通結節機能(3つ以上の公共交通モードを有しているもの)を担うもの「地域拠点」は、都心・副都心を除き、
  - ・期待される役割がある拠点のうち、
  - ・複数の上位計画に拠点等の位置づけがあるもの、又は、2種以上の高次都市機能が期待されるもの

「生活拠点」は、都心・副都心及び地域拠点以外のもの

と整理することができます。

なお、同一拠点で複数名称があるものがあるため、以下、立地適正化計画における都心・副都心、 地域拠点、生活拠点の地区名称は次のとおりとします。また、八幡の地区名称については、博物館 等の観光資源の集積や北九州スマートコミュニティ創造事業等の実施により拠点性が向上してい る東田地区も含めて一の拠点として扱うこととし、「八幡・東田」とすることとします。

(立地適正化計画における都心・副都心、地域拠点、生活拠点の地区名称))

小倉都心 黒崎副都心 門司港 門司 城野 徳力·守恒

下曽根 若松 八幡・東田 東折尾 折尾 八幡南 戸畑

上葛原 学術研究都市 二島 永犬丸・三ヶ森

## (4) 将来都市構造

都心・副都心、地域拠点として整理した各拠点を図として表すとP64の通りです。

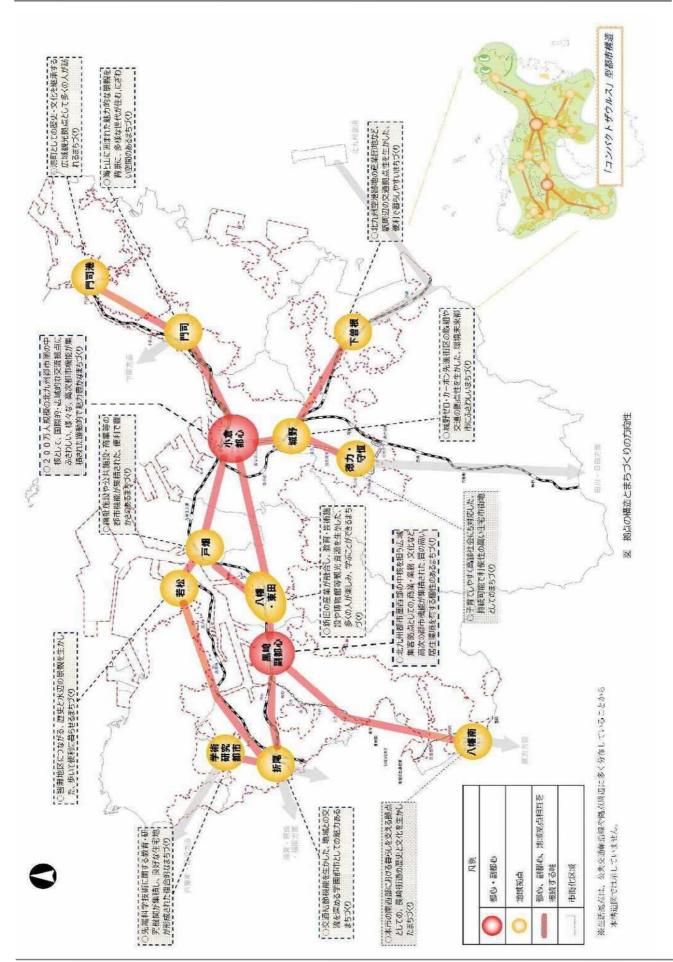
拠点とこれらを結ぶ軸から構成される、目指すべき本市の将来の全体都市構造は、門司港が頭で、 学術研究都市が尻尾、南の下曽根・八幡南等を足とする、いわば「コンパクトザウルス」型の都市構 造ということができます。



図 「コンパクトザウルス」型の都市構造

3公公里
政来 の 非 れ
いいかれて
< 1000
こ来れら
来

	サード		機能	(小学語) 〇	<b>化</b> 经基础	路域機高	地域拠点	地域拠点	地域拠点	地域拠点	地域拠点	地域拠点	地域拠点	地域拠点	地域拠点	生活拠点	生活拠点		生活拠点
期待される役割		4		0	0	_					0	0		0					_
			0	0	0	0				0	0	0		0					
	出海の	TO DECRE	0		0	0					0		0		-				
	日子 常田 瀬舎		, O					0			0			- 2	0				_
		1	K O	0	0		0	0	72		0			0				,	_
			K 0	0	- Wr	0	0	0	0	0	0	0	0	0	O 配金		0	2	0
_		1	5	程	0 能	Z#	ړ	Ţ.	τυ	182-3°	A.				(事)				
表。将来のまちしくりの万日在乙期待される役割。	将来のまちつくりの方向性	[200万人財機の北小州都市圏の中級として、国際的・広場的な交流拠点にあさわしい、様々な、高水都市総維が実質された理動的で魅力数が生まらび、別・200万人財権の北上州衛市圏の中株・200万人財権の北上州衛市圏の中株・にざわか・汚力を創出し、北九州市立のの北京の北岸市圏の落城を牽引・1回2時による国の水やもが発とした地方・1回2時による国の水をが発えした地方	<ul> <li>「おり必要に面面第第の中級が知りび製無幹局点とした。複数・業務・女化なび点效の器に機能 が無確された。質の私で再再減少を行む。因而のあるまちんくり」 ・今倍等のも数々を指するかがない表示と関目部中後 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	【部門としたら歴史・文の名巻集中な伝統政党製成とした多くの人が設定さませんへり】 ・歴史のヴォーターレントンを活むした灯装観光製成 ・新口としたの極業業務選 ・新口としたの機業業務選	「稀と山に囲まれた魅力的な景観を音振い。多様な世代が信む。にぎなる時間のあるまちらくり」・上地区画歌劇事業による教行な魅力や、本川との鉄道結節点としての特性を生かしたまちらく、いる大幅鉄再配置による集彩型の指言構造形成におけた光等地区	<ul><li>【基型かロ・ケーボン・布着点文の原準な多效国の場ば有金油でした、軽減水水粧に言うかわりで来なんへたり。</li><li>・・経験未水憩にあれ込む。かかり、サーボンボルンへの・ 連らの整装部に対ける襲圧が整則の完生型・ 連合の整装器に対ける襲圧が整則の完生型</li></ul>		[北九州空港縣地の産業回泊など、製団辺の交通基点性を生かした、仮料で落ちしやすいまなくり] よくり] ・木井の中東辺の都市後としての機能集積 ・糸柱の市本辺の都市後としての機能集積 ・条件に完善する産業団地や作形中地との交通拠点としてのニーズに対応したまちがくり	「整備者又にもながる、原弁と大型の核菌を刊ぎった、JAVに原向に伴のももおもん。D.・・整備国内の商業開発に全い四年1-大陸の報告にか続して出せん。D 1 再生国人が観視したません。	<ul><li>「原田の直接が限金し、教育・近接電鉄や車物館等観光資販を出かした。多くの人が乗し分とことができるまなくり」</li><li>・互接原派・互換電流・国際交流の地点としてのまちんぐり</li><li>・環境直接といる名はモアル当区としてのまちんくり</li></ul>	<ul><li>「交通業額機能を生かした、過期との交流や数学機能によっての権力をおまらびくり」・「回過における鉄道業態の緊衝とした、「減費因文を中国にも減少としたまちるぐり・光元素学術学院指しる支数ロエネがむして交通数点が、。</li></ul>	「本中の直面部における暮らしも女える地震としての、長島街道の題及と文化を生かした。 まちなくも」 ・女塚伊道県ソ文化を治用したまちるくと ・女塚伊道県ソ文化を治用したまちるく。 ・女女本市において、 市場海南部における際もしを女える同国に際のしかしいましん。	「治力通報や公共協会・経験等の権力機能が発掘された、仮向の割からのあるまもがくり」・国辺を作めた治士・文教後区としたのメメージを示かったまちんくり・現在の路市機能の法確在を示さったよりへ、	「光端本学技術に置する教育・康治療園が整備し、収算存用的過程形成の古代数金色存れる人の 1 ・ をおったの 1 ・ 変数・ 2を表現のことのよった。 ・ 変数・ 序形態調かってのまなるへの ・ 変数・ 序形態調かっての最高が調整ってれたなんへの	父祖生原本を主がつち 極端す井と声やムペン  - X 神道の音をかまどった 中で、大田道の音をかまだった。 当場在地の音をできた なん といまれる 表現 最近 のかった 最近 の アポウム と	【既存の生活支援機能の集積を生むした契のしやすいまちがくり】 ・商業権設などの機能集積を生かしたまちがくり	「参加統領会と主流を指義後の伝統を生た」を構むしませた。このロ	- こうよう コープンス 指摘 できる はない はい こうしん アントラン はい はい こうしん かい こうしん かい こうしん かい こうしん かい こうしん かい こうしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かい	
		拠点性の向上要因ス	・グローベルの選信時用源に行う国と一存となった。 なった原来の返開 ・・今里看冷楽口におけるスタジアムの製信 ・野へ飛客アクッコンプランドルの製信 ・構成等アクションプランに指くメントに応の 権策原用	・ 芸術ペインスの国道による複色的な交通流指の線性、 公本交通の効果性の向よ ・ 芸術歴における商本自由通報の整備、試績影倫特之 ・ 安川ロボット科	・公共議会中生限に向けた治療権区・広境観光機法としたの交流人口能機	・公共施設市主間に向けた沿導地区 ・保護関北と一大の交流人口膨張 ・国用地域の結節点(機軌道) ・資物ターミナル駅 ・国物を一ミナル駅 ・国物を一ミナル駅 ・国物を一ミナル駅 ・国物を入るとの通信権 (構装組長かる発用可越及との連載)	・森琴カロ・ケージン化剤空风でしたの養殖	・地域医療衛柱拠点の形成 [UR(億力・五億)] ・公共施診・医療施設の集積(図書館・養育センター等)	<ul> <li>・ おナエ谷海豚海血産製田払うらの交通注酌・ ・ たまが牧母家からの交通発酵・ ・ 国教・ストアの交通治経 (占市、 資本区がらの左右治療)</li> </ul>	<ul> <li>・ 指点人権、トンネルの無枠化・ ・ 解析ストーインダストリー ・ 原力希腊発素ンジン素 ・ 右フ・井エコタンシャ業 ・ 方が出作するので、 はからは ・ 丁基単位、 り次を指摘点</li> </ul>	・北方山スマートコミュニテノ自む音楽 ・人橋局窓の移転・建株に伴う機能的化 ・各種内物館等の気積	· 折尾相区総合整備事業	<ul><li>・木咕娜及解点点整備均</li><li>・・、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</li></ul>	・ 井戸大橋、 トンネルの無料化 ・ 岩粒地区への交通指導点 ・ ウェケ戸道 (袖社のシンズル)	・北方は平衛島突着市				
上位計画の位置づけ	置つけ	区域マス	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•		•
	都市マス	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•			ĺ		
	上位計	1氏 4		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•				Ī	
			小倉	響	投旧監	lia'	城野	億力·守恒	下曾根	若松	八幡・東田	折尾	八幅兩	魯	学物研究都市	東折尾	上葛原	Ð	明



第5章

~ 都市機能誘導区域 ~